

「県民健康管理調査検討委員会」の会議運営に係る調査結果について

平成24年10月9日
「県民健康管理調査」検討委員会
運営に係る調査委員会

1 調査方法

総務部長を委員長とする調査委員会を立ち上げ、10月5日（金）から10月8日（月）にかけて、検討委員会等の運営状況について検討委員会委員（オブザーバー含む）及び関係職員（退職者含む。）への聴き取り調査を行った。また、これまでに検討委員会・準備会等にて配布された資料等の収集とその差異について調査した。

2 調査結果

（1）「準備会」・事前打合せについて

① 開催の目的・趣旨

資料の事前説明を受け、内容を理解し、検討委員会本番における議論を深めていくためという目的・趣旨で開催したものであった。

個人情報や人権等の問題、資料の精度の問題のため、非公開としているが、今回の問題で、県民に調査に対する不安・不信感を与えたことを踏まえれば、今後の在り方について検討が必要である。

② 発言内容の調整等について

調査の結果、発言内容の調整等を行ったという事実は認められなかった。

なお、第8回準備会において、出席者から、甲状腺がん患者が見つかったことの説明が行われたが、患者のプライバシーへの配慮が必要等の趣旨で行われたものであり、がん発生に関して委員間の意見のすり合わせを行った事実はなかった。

③ 「準備会」・事前打合せの存在・内容の口止め依頼について

職員・委員等からの聴き取りや議事録・録音記録等資料の確認の結果、準備会等の存在・内容について口止めを行ったという事実は認められなかった。

ただし、「三々五々検討委員会会場に向かってください」などの誤解を招くような発言があったことは事実と認められる。

④ 「準備会」・事前打合せ資料の回収について

委員の回答で、回収したとされる資料があったが、これは「集計途中で未完成の資料」等とされるものであり、特に問題のあるものは認められなかった。

（2）検討委員会の運営状況等について

① 発言内容の調整等について（「準備会」・事前打合せ以降）

発言内容の調整等を行ったという事実は認められなかった。

② 「進行表」について

第3回検討委員会においていわゆる「進行表」を作成していた（第3回検討委員会以外について、「進行表」に相当する資料を確認したが、当該「進行表」のような審議の方向性に大きく関わる記載のある資料の作成は認められなかった。）。

この「進行表」は、あくまで議事を円滑に進めるため議事進行上の留意点を周知し議論の拡散を防ぐことを目的として作成したもので、県として議論を一定の方向に誘導する意図はなく、委員も発言の抑制・誘導を受けたとの認識はなかった。また、議事録等の資料においても確認できなかった。

ただし、「進行表」の中に、SPEEDIの問題など、誤解を招く表現を記載していたこと等、議論の誘導を図ったと県民に疑念を抱かせかねない行為であったと認められる。

③ 検討委員会資料の回収について

検討委員会資料で回収されたものが一部にあったが、作成者からの公開の同意を得ていないという合理的な理由のあるもので問題はなかった。

(3) 検討委員会等資料の確認結果について

準備会資料と検討委員会資料の間に一部差異はあったが、それは途中経過の報告資料であるなど合理的な理由があった。

第1回から第3回の検討委員会についての議事録の情報公開請求があった際に、議事録が作成されていなかったことから、本来、議事録が不存在である決定をすべきであったが、行わなかった。また、その後、現に保有する議事メモを基に委員に発言内容の確認を得て議事録とすべきところ、議事メモから一部を除いて作成した資料を議事録として開示したという不適切な処理を行ったことを確認した。

このような処理は不適切なものであり、直ちに是正すべきと考える。

(4) 事務決裁等について

重要な業務に関する事務決裁や報告が口頭によって行われていたことを確認した。

理由は、業務の繁忙や、発災以降の混乱した組織体制の中で、指揮命令系統の分断等により内部牽制が十分に機能しなかったことが原因であった。

3 結論

検証の結果、委員等の意見では、事前の意見調整や口止め、振り付け等の事実は認められなかった。しかし、「進行表」の配布など、県民に意見調整等の疑念を抱かせかねない行為があったと認められる。

このことは、県民に、県民健康管理調査への不安と不信感を与える結果となり、県民健康管理調査検討委員会の運営の公平性、透明性を確保し、信頼の回復に向け、委員会の会議の在り方を見直す必要があると考える。

また、県全体として、事務決裁規程の徹底、情報公開の運用の適正化を図るとともに、県に設置されている審議会、検討委員会等様々な意思決定のための会合においても、更なる透明性の確保に努めるなど、会議の在り方の点検・改善が必要であると考える。